

高位平準動物看護概論 公衆衛生学 対面学習確認テスト

問題1: 動物公衆衛生の対象でない分野はどれか。

- ① 人獣共通感染症対策
- ② 食品衛生
- ③ 動物の疾病の治療
- ④ 環境衛生
- ⑤ 動物愛護・福祉・管理

問題2: カプノサイトファーガ感染症についての記載で正しいのはどれか。

- ① 病原体は犬や猫の口腔常在ウイルスである。
- ② ヒトへは動物から飛沫感染する。
- ③ 幼児の感染が多い。
- ④ ヒトの死亡例はない。
- ⑤ 近年、増加傾向である。

問題3: 狂犬病についての記載で正しいのはどれか。

- ① 犬以外にもキツネ、コウモリなどの野生動物に感染するが、猫には感染しない。
- ② 動物が発症しても死亡しない。
- ③ ヒトが発症した時の死亡率は約50%である。
- ④ ヒトへは空気感染する。
- ⑤ 感染犬にかまれた場合、曝露後免疫により発症を防ぐことができる。

問題4: トキソカラ症についての記載で正しいのはどれか。

- ① 病原体は犬回虫であり、猫回虫はヒトに感染しない。
- ② ヒトでは幼虫移行症により呼吸器症状や神経症状が現れる。
- ③ 子犬の感染率は低い。
- ④ 猫は不顕性感染である。
- ⑤ 駆虫薬は適応されない。

問題5: 滅菌法について記載で正しいのはどれか。

- ① 乾熱滅菌はプラスチック製品に使用できる。
- ② 高圧蒸気滅菌(オートクレーブ)は液体の滅菌には使えない。
- ③ 医療器具などのガス滅菌にはエチレンオキサイドガスが使われる。
- ④ 450nmのポアサイズの濾過滅菌でウイルスを除去できる。
- ⑤ 紫外線滅菌により微生物のたんぱく質が変性する。

問題6: 消毒法についての記載で正しいのはどれか。

- ① 次亜塩素酸ナトリウムはすべてのウイルスに有効である。
- ② クレゾールはすべてのウイルスに有効である。
- ③ ヒビテンはすべてのウイルスに有効である。
- ④ グルタルアルデヒドは芽胞を不活化できない。
- ⑤ 消毒用エタノールは芽胞を不活化する。

問題7: 感染症法、狂犬病予防法についての記載で正しいのはどれか。

- ① 感染症における獣医師の届出義務の対象感染症にレプトスピラ症が含まれる。
- ② 感染症法では、対象感染症を診断した獣医師の農林水産省への届出義務が規定される。
- ③ 鳥インフルエンザ(H5N1)は感染症法の一類感染症である。
- ④ 狂犬病予防法における検疫対象動物に猫が含まれない。
- ⑤ 狂犬病予防法で、飼い犬における狂犬病ワクチンの接種が義務化されている。

問題8: 人獣共通感染症の中で、原虫を病原体とする疾患の組み合わせで正しいのはどれか。

- a. 猫のひっかき病
- b. トキソプラズマ病
- c. 炭疽

- ① a, b
- ② a, c
- ③ a, b, c
- ④ b
- ⑤ b, c

問題9: 人獣共通感染症について正しいのはどれか。

- ① Bウイルス病の病原体は寄生虫で、主な感染宿主はサルである。
- ② マールブルグ病の病原体はウイルスで、主な感染宿主はサルである。
- ③ エボラ出血熱の病原体は、細菌で、おもな感染宿主はサルである。
- ④ サル痘の病原体は寄生虫で、主な感染宿主はサルとリスである。
- ⑤ 黄熱病の病原体は原虫で、主な感染宿主はサルである。

問題10: ブルセラ症について間違っているのはどれか。

- ① 雌犬では流産や死産を起こす。
- ② 雄犬では精巣炎の後に不顕性感染となる場合が多い。
- ③ ヒトでは水頭症を起こす。
- ④ 交尾などで水平感染する。
- ⑤ 原因はブルセラ菌という細菌である。

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)

高位平準動物看護概論 公衆衛生学 対面学習確認テスト**正答**

問題1: 動物公衆衛生の**対象でない**分野はどれか。

- ① 人獣共通感染症対策
- ② 食品衛生
- ③ **動物の疾病の治療**
- ④ 環境衛生
- ⑤ 動物愛護・福祉・管理

問題2: カプノサイトファーガ感染症についての記載で正しいのはどれか。

- ① 病原体は犬や猫の口腔常在ウイルスである。
- ② ヒトへは動物から飛沫感染する。
- ③ 幼児の感染が多い。
- ④ ヒトの死亡例はない。
- ⑤ **近年、増加傾向である。**

問題3: 狂犬病についての記載で正しいのはどれか。

- ① 犬以外にもキツネ、コウモリなどの野生動物に感染するが、猫には感染しない。
- ② 動物が発症しても死亡しない。
- ③ ヒトが発症した時の死亡率は約50%である。
- ④ ヒトへは空気感染する。
- ⑤ **感染犬にかまれた場合、曝露後免疫により発症を防ぐことができる。**

問題4: トキソカラ症についての記載で正しいのはどれか。

- ① 病原体は犬回虫であり、猫回虫はヒトに感染しない。
- ② **ヒトでは幼虫移行症により呼吸器症状や神経症状が現れる。**
- ③ 子犬の感染率は低い。
- ④ 猫は不顕性感染である。
- ⑤ 駆虫薬は適応されない。

問題5: 滅菌法について記載で正しいのはどれか。

- ① 乾熱滅菌はプラスチック製品に使用できる。
- ② 高圧蒸気滅菌(オートクレーブ)は液体の滅菌には使えない。
- ③ **医療器具などのガス滅菌にはエチレンオキサイドガスが使われる。**
- ④ 450nmのボアサイズの濾過滅菌でウイルスを除去できる。
- ⑤ 紫外線滅菌により微生物のたんぱく質が変性する。

問題6: 消毒法についての記載で正しいのはどれか。

- ① **ビューラックスはすべてのウイルスに有効である。**
- ② クレゾールはすべてのウイルスに有効である。
- ③ ヒビテンはすべてのウイルスに有効である。
- ④ グルタルアルデヒドは芽胞を不活化できない。
- ⑤ 消毒用エタノールは芽胞を不活化する。

問題7: 感染症法、狂犬病予防法についての記載で正しいのはどれか。

- ① 感染症における獣医師の届出義務の対象感染症にレプトスピラ症が含まれる。
- ② 感染症法では、対象感染症を診断した獣医師の農林水産省への届出義務が規定される。
- ③ 鳥インフルエンザ(H5N1)は感染症法の一類感染症である。
- ④ 狂犬病予防法における検疫対象動物に猫が含まれない。
- ⑤ 狂犬病予防法で、飼い犬における狂犬病ワクチンの接種が義務化されている。

問題8: 人獣共通感染症の中で、原虫を病原体とする疾患の組み合わせで正しいのはどれか。

- a. 猫のひっかき病
- b. トキソプラズマ病
- c. 炭疽

- ① a, b
- ② a, c
- ③ a, b, c
- ④ b
- ⑤ b, c

問題9: 人獣共通感染症について正しいのはどれか。

- ① Bウイルス病の病原体は寄生虫で、主な感染宿主はサルである。
- ② マールブルグ病の病原体はウイルスで、主な感染宿主はサルである。
- ③ エボラ出血熱の病原体は、細菌で、おもな感染宿主はサルである。
- ④ サル痘の病原体は寄生虫で、主な感染宿主はサルとリスである。
- ⑤ 黄熱病の病原体は原虫で、主な感染宿主はサルである。

問題10: ブルセラ症について間違っているのはどれか。

- ① 雌犬では流産や死産を起こす。
- ② 雄犬では精巣炎の後に不顕性感染となる場合が多い。
- ③ ヒトでは水頭症を起こす。
- ④ 交尾などで水平感染する。
- ⑤ 原因はブルセラ菌という細菌である。

* 出問参考図書: 動物看護コアテキスト(ファームプレス)、動物看護師統一認定試験対策過去問題集(インターズー)